平成26年8月22日

保護者　各位

小城市立牛津中学校
校　長　　島　一満

平成２６年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成２６年４月２２日に中学１・２年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学３年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていきたいと考えています。

１　１年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国 語	全体での正答率は県の正答率とほぼ同じ成績であった。観点別では、「話す･聞く」「知識・理解・技能」「読む」が県平均とほぼ同じ、「書く」は県平均をやや下回るが、全体的には県平均とほぼ同じである。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の計が92.0%であり、県をやや上回る結果となっている。	「書く」の正答率は県平均をやや下回るが、「読む」の正答率は県平均とほぼ同じとなっている。意識調査の「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」という設問で「当てはまる」が県平均を大きく下回り、「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」も県平均を大きく下回っていることから、段落ごとの関連・論理の構成を意識しながら読むことや、段落ごとに要約をして文章全体の流れをつかむ学習を授業の中に取り入れていきたい。また、同時に「相手に分かりやすく表現する」ことを意識した小感想や要旨のまとめを書くなどの学習を行っていきたい。
数 学	全体での正答率を見ると、県平均とほぼ同じであり、おおむね達成の到達基準は上回る成績であった。観点別では、「見方や考え方」「知識・理解」は県平均を上回ったが、「技能」だけが下回った。しかし、「技能」「知識・理解」はおおむね達成の到達基準は上回っている。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が93.1%であり、県をやや上回る結果となっている。	「技能」の正答率は県平均とほぼ同じ結果であった。この結果を向上させるために、問題集やプリントなどで復習を習慣化させることで、学習内容の定着を図りたい。「見方や考え方」については、授業の中で筋道を立てさせたり、根拠を考えさせたりして力をつけさせたい。そのために、考え方を発表や記述する機会を増やしていきたい。 また、ティームティーチング授業を実施する中で生徒たちの疑問に早急に答え、丁寧な指導をしていきたい。

２　２年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国 語	全体での正答率は県の正答率とほぼ同じであり、おおむね達成の到達基準は県平均を大きく上回る成績であった。観点別では、「書く」「知識・理解・技能」が県平均を上回り、「話す・聞く」が県平均とほぼ同じ、「読む」が県平均からやや下回るものの、全体的には県平均とほぼ同じである。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が84.1%であり、県をやや上回る結果となっている。	「読む」の正答率が県平均をやや下回り、「書く」の正答率は他の観点に比べて低い結果であった。意識調査においても「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」という設問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が県平均を大きく下回っていることからも、特に説明文的文章で段落どうしのつながり方や全体の論理の構成を把握するための学習を授業の中で繰り返し行い、内容を読解する力を育てるとともに、「書く」活動において自らの文章表現に段落のつながり、主張を読者に理解してもらうための構成の工夫など学んだことを応用するような学習を行っていきたい。
数 学	全体での正答率を見ると、県平均をやや上回り、おおむね達成の到達基準も上回る成績であった。観点別では、昨年度は「見方や考え方」のみが県平均を下回っていたが、今年度は「見方や考え方」「技能」「知識・理解」のすべての観点において、県平均とおおむね達成の到達基準を上回っている。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が95.1%であり、県を大きく上回る結果となっている。	「見方や考え方」の正答率が県平均をやや上回っているものの、他の観点より低い結果であった。 この結果を向上させるためには、日常生活と数学の関わりを理解させることや、多角的に数学的事象を捉えて法則を見いだしていく力を養うことが必要である。そのために、多面的に捉えることができるような場面設定を行うことや、学習場面の中で言語活動を重視した授業を多く取り入れていきたい。それが数学的な表現力を身につける上でも大切であると思われる。

３　３年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国 語	全体での正答率はおおむね達成の到達基準を上回ってはいるが県の正答率よりもやや下回る成績であった。観点別では、「話す・聞く」が県平均とほぼ同じではあるが、他の観点は県平均を下回り、「関心・意欲・態度」においては低い結果であった。しかし、意識調査においては「国語の勉強は好きだ」という設問に対して「当てはまる」が県平均をやや上回り、「授業の内容はよく分かる」という設問についても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計は76.1%であり、県をやや上回っている。	意識調査の「解答を文章で書く問題がありましたが、……最後まで解答を書こうと努力しましたか」で「最後まで書こうと努力した」が県平均を大きく下回り、逆に「途中で諦めたりしたものがあった」は県平均を大きく上回っている。また「原稿用紙２～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」「自分の考えを他の人に説明したり,文章に書いたりすることは難しい」と感じている生徒が県平均を上回っていることからも、文章（を読む・書く）に対する抵抗感が大きいと思われる。授業の中で、１・２年時の復習を多く取り入れて語彙や文法の補強を行い、単元ごとや課題等で小感想や要旨のまとめを書く活動を行って、文章の読み書きに対する苦手意識を取り除きたい。
数 学	全体での正答率を見ると、県平均とほぼ同じであった。内容領域別正答率でも、どの領域もほぼ同じ結果となっているが、どちらかというと「関数」「図形」領域が低く、観点別では「見方や考え方」が県平均を下回っており、文章問題などの記述式による問題解決を不得意とする生徒が多いことがわかる。また、意識調査においては「授業の内容はよく分かる」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が77.2%であり、県をやや上回る結果となっている。	他の観点に比べ、「見方や考え方」は平均をやや下回っている。 この観点を向上させるためには、「見方や考え方」を問う文章問題の指導においては、苦手意識を持たせないよう補充プリントを作成し、丁寧な指導を心がけていきたい。また、現在行っている小テスト、中テストや週末課題を続け書き直しまで徹底させたい。